

# ANNUAL REPORT 2024

令和6年度 活動報告書

Rural Innovation Lab

神戸大学・丹波篠山市  
農村イノベーションラボ



TAMBASAYAMA FIELDSTATION  
丹波篠山フィールドステーション

ANNUAL REPORT 2024



## 農村の未来を創る「地」と「知」の拠点

神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボと丹波篠山フィールドステーションは、農村地域の課題解決と発展のため、現場発のイノベーション、地域に根差した教育と研究、地域の人材育成に取り組む拠点です。神戸大学と丹波篠山市との地域連携協定のもと、神戸大学大学院農学研究科地域連携センターが中心となり運営しています。

丹波篠山には、戦後、神戸大学農学部的前身である兵庫農科大学が設立され、1966年の国立移管までの間、多くの学生や研究者が学び、研究をしてきました。その後、当時を知る人々が少なくなる中で関係性を再構築するため、2006年に丹波篠山フィールドステーションを開設し、大学と市が連携して活動を行うことになりました。2007年から大学生が農家に学ぶ実践農学入門や、市民との協働活動を通して学ぶ実践農学などの「食農コープ教育プログラム」を実施するとともに、2014年からは、大学生・大学院生が丹波篠山に住みながら自身の専門知識を活かし、地域の課題解決を目指す「半学半域型」と一般社会人が地域資源を活用した起業を目指す「起業支援型」の地域おこし協力隊制度を導入しています。また、「食農コープ教育プログラム」受講をきっかけとして、学生が自主的に結成した学生団体が地域の課題解決や地域住民との交流活動を行っており、10年以上活動を継続している団体もあります。

さらに、2016年にはJR篠山口駅構内に神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボを開設するとともに、その事業推進の主体として一般社団法人EKILAB.を市と大学で設立し、より充実した活動が展開できる体制を整えました。2022年1月には、これらの活動を持続的に発展させるため、EKILAB.を再編し、一般社団法人丹波篠山キャピタルを設立しました。

これからも、地域に根差したビジネスづくり、地域でチャレンジする人材の支援を行うとともに、新しい農村社会の形成につなげるような、価値創造的で実践的な研究に取り組んでいきます。



## 地域連携を支える3つの取り組み

### 1 地域創造研究

農村社会の課題解決を目指し、新しい価値を生み出すような研究を行います。プロジェクトスタッフによる自主共同研究の実施および大学研究者が丹波篠山市で実施する調査研究の支援を通じて、地域課題の解決方法を提案し、地域の持続的な発展に寄与することを目指します。



丹波篠山で実践されている研究の多くは、市民に向けても広く発信しています。

### 2 地域人材育成

丹波篠山を舞台に活躍する学生や市民など、地域発展と課題解決を目指したイノベーターたちの学びや挑戦、成長をサポートします。「食農コープ教育プログラム（大学生向け）」や「篠山イノベーターズスクール（社会人向け）」など、地域に根差した実践的な学習プログラムを企画・支援します。



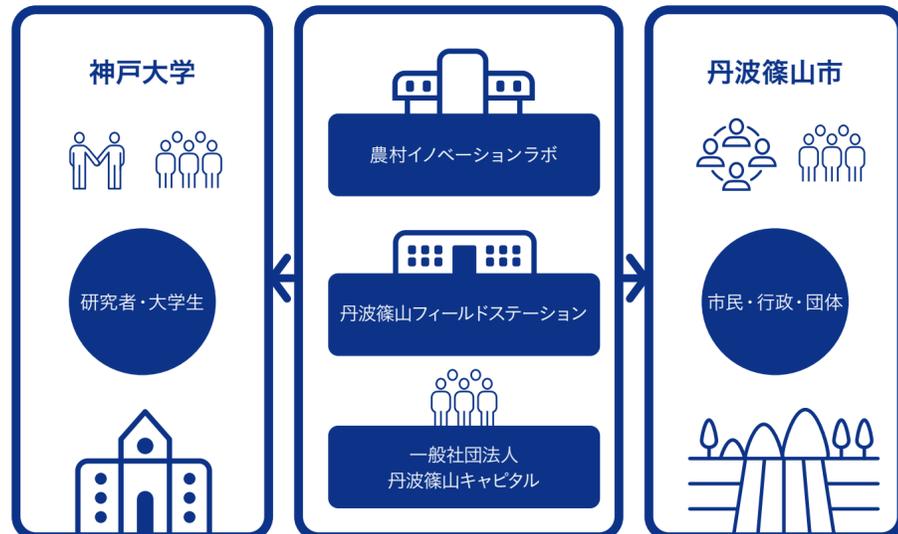
大学生から社会人まで、農村を舞台にした多様な人材育成プログラムを実施しています。

### 3 活動・情報支援

さまざまな立場の人々のネットワークづくりを支援するとともに、各種ワークショップやセミナーなどを開催することにより、情報の共有や参画する人々のスキルアップを支援します。また、地域づくり活動、政策についてのアドバイスやサポートも行い、丹波篠山の発展に寄与していきます。



各種の成果発表会やセミナーなどを通じて大学の取組や事業を公開しています。



## プロジェクトスタッフ

大学研究者をはじめ、若手研究者や実践家など分野を問わず多様なスタッフが運営しています

神戸大学

丹波篠山キャピタル



安部 梨杏

神戸大学大学院農学研究科 特命助教  
丹波篠山駐在研究員



三原 香奈子

神戸大学  
丹波篠山駐在教育研究補佐員



中塚 雅也

リーダー  
神戸大学大学院農学研究科 教授  
(一社)丹波篠山キャピタル代表理事



谷川 智穂

(一社)丹波篠山キャピタル ディレクター  
篠山イノベーターズスクール  
チーフコーディネーター



谷垣 友里

(一社)丹波篠山キャピタル  
地域おこし協力隊  
チーフコーディネーター



瀬戸 大喜

(一社)丹波篠山キャピタル  
地域しごとサポートセンター丹波  
センター長



河口 英樹

(一社)丹波篠山キャピタル  
地域おこし協力隊  
コーディネーター



岡安 陽子

(一社)丹波篠山キャピタル  
コーディネーター

神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ  
〒669-2212 兵庫県丹波篠山市大沢165-3  
Phone/Fax. 079-506-6628



丹波篠山フィールドステーション  
〒669-2324 兵庫県丹波篠山市東新町4-5  
Phone/Fax. 079-506-2366

### E-Mail・HP・SNS

神戸大学・丹波篠山市地域連携プログラム  
Mail ans\_chiiki@sasayamalab.jp  
H P http://sasayamalab.jp  
sasayamaXkobe.univ  
kobesasayamalab

一般社団法人丹波篠山キャピタル  
Mail info@tscapital.jp  
H P http://tscapital.jp  
tambasayamacapital.jp  
tambasayamacapital

# まち・ひと・しごとの創造的な循環を生み出す

## 1 地域創造研究



### 地域づくりコーディネーターの課題と育成手法

安部梨杏 (丹波篠山駐在研究員)  
中塚雅也 (農学研究科教授)

丹波篠山市においてまちづくり協議会(地域運営組織)の現状や課題を共有するなかで、中間支援等のコーディネーターに求められる役割や必要な支援策を検討し、育成手法を実践的に探る。

**KEYWORD** 中間支援、地域運営組織、人材育成



### 地域人材育成エコシステムの構築

中塚雅也 (農学研究科教授)  
安部梨杏 (丹波篠山駐在研究員)

丹波篠山市と神戸大学の地域連携事業を持続的に担う法人として丹波篠山キャピタルを設立・運営し、起業・継業支援を通じた移住支援などを通して地域内の人材育成の仕組みを構築する。

**KEYWORD** 篠山イノベーターズスクール、起業・継業、丹波篠山キャピタル



### 篠山城跡南堀のハス復活事業のモニタリング調査

鈴木武志 (農学研究科助教)

2005年に篠山城南堀で蓮が枯死した原因を明らかにし、2018年に再生・開花した。現在は南堀一面での再生時期を予測し(2023年秋)、維持できるようにモニタリング中である。

**KEYWORD** 篠山城蓮、蓮一斉枯死、侵略的外来種



### 丹波篠山市内の祭囃子等の保存・伝承

三原香奈子 (丹波篠山駐在教育研究補佐員)  
安部梨杏 (丹波篠山駐在研究員)

篠山春日神社秋祭で演奏される祭囃子の伝承について、各峰山にアンケート等の調査を行うとともに音源を収集し、楽器の確保、乗り子(演奏者)の育成、楽譜化等書面での保存方法の検討を行った。

**KEYWORD** 祭囃子、篠山春日神社、秋祭



### CSA普及のための新たなモデル構築に関するアクションリサーチ

中塚雅也 (農学研究科教授)  
岡久花衣・福永光希 (農学研究科学生・農学部学生)

従来のCSA (Community Supported Agriculture) の課題を解決する仕組みの構築を目指し、卒業生農家「ノカ、ナガイ」と共に「神戸大学版CSA」を実践し、その検証と改善を行った。

**KEYWORD** CSA、地域支援型農業、生産者、消費者



### 経済実験による丹波篠山黒枝豆の販促政策の検討

岡本美咲 (農学研究科学生)  
八木浩平 (農学研究科准教授)

有機黒枝豆の販売促進に効果的なフレーズの検討のため、コープ神戸の複数店舗で様々なポップを用いた社会実験を行い、希少性のアピールが有効である点を明らかにした。

**KEYWORD** 丹波篠山黒枝豆、RCT、消費者行動、販促活動



### 兵庫県丹波篠山市における市史編さん事業のための研究と検討

奥村弘 (人文学研究科教授)  
松本充弘 (人文学研究科特命助教)

1999年の旧4町合併以降の自治体史を編さんするため、住民・行政と連携し、歴史資料の所在調査に取り組むとともに、その成果を市史編さん委員会や住民にも共有する。また、編さん後を見据え、市民主体の地域歴史遺産の保全・活用方法を追求する。

**KEYWORD** 丹波篠山市史、地域社会、地域歴史資料



### 兵庫県内の圃場毎営農状況の自動判別法の開発

長野宇規 (農学研究科准教授)

積雪の影響を加味した水稻の移植日推定法、最大正規化植生指数と気象データに基づいた水稻収量予測モデルを開発した。

**KEYWORD** 水稻、移植日推定、水稻収量予測モデル



### 農村高齢女性による地域食に関する知識保有と継承意向

岡久花衣 (農学研究科学生)  
中塚雅也 (農学研究科教授)

郷土料理や伝統食の知識を持つ団体が住民に聞き取り調査を行い、その保有状況、前世代からの継承の方法、今後の継承意向について明らかにし、継承の課題や必要な支援について考察した。

**KEYWORD** 食文化、ナレッジマネジメント、女性グループ



### 兵庫県丹波篠山市に連続分布するニホンザル群の農地利用特性と被害軽減に関する実践的研究

清野未恵子 (人間発達環境学研究科准教授)  
福田伊津子 (農学研究科助教)

ニホンザルの集落出没を誘引する放置柿を一斉収穫するイベント「さる×はた合戦」を10年間開催支援している。その結果、獣害対策を資源とした他のイベントも開催される等、丹波篠山市畑地区への関係人口の流入を促進している。

**KEYWORD** ニホンザル、放置柿、獣害対策



### 丹波篠山有機黒枝豆の販路選択に関する意思決定過程の解明

八木浩平 (農学研究科准教授)

既存の販路や営農戦略との違いを明確にし、均質で一定量の有機黒枝豆を確保することが、産地形成の課題であると判明した。今後はより緩やかな連携や農家名入りでの共同出荷、慣行農家の有機への転換等の実現可能性を検討する。

**KEYWORD** 丹波篠山黒枝豆、有機農業、販路選択

## 2 地域人材育成

### 食農コープ教育プログラム

#### 実践農学入門 (履修者44名)

2024年度は味間地区の農家に弟子入りし、農作物の栽培やむら仕事を体験しました(5回)。また、体験から得た知識をもとに、地域の課題解決に向けた提案を考えるためのワークショップを含む校内学習を3回実施し、地域で成果発表会を開催しました。



#### 農作業を体験

受入農家の指導の下、黒大豆や野菜の栽培などの作業を行い、農家の仕事を体験しました。



#### 地域の方々との交流

地域の環境や暮らし、農業の課題などについて、農家との対話の中で多くを学びました。



#### 成果発表会

体験から学んだ事をもとにグループワークを行い、地域課題を見つけ、その解決策を提案しました。

#### 実践農学 (履修者8名)

調査やプロジェクトに実際に参加し、農村地域における課題解決に寄与する取組や施策の企画立案などを行っています。2024年度は、雲部地区において「地域食を掘り起こそうプロジェクト」に取り組みました。



### 篠山イノベーターズスクール

(第10期履修者:32名)

篠山イノベーターズスクールは、夢・仲間・資源を、みつけ、つなげ、カタチにするためのローカルビジネススクールです。丹波篠山市が主催し、(一社)丹波篠山キャピタルが運営しており、神戸大学が企画運営の支援をしています。約1年間のプログラムで、ゼミ形式で同じ志を持った仲間とビジネスをカタチにする「コース」、講義形式で農村ビジネスのセオリーを学ぶ「セミナー」、ビジネスモデルづくりから地域での実践・離陸までを伴走型で支援する「起業実践サポート」を通して、ノウハウ・セオリー・ネットワークを獲得します。

〈2024年度CBLテーマ〉  
起業エントリ  
起業アドバンス  
コミュニティビジネス  
ローカルデザイン



スクールの概要はこちら

📍 sasayamainnovatorschool  
HP <https://school.tscapital.jp>



## 3 活動・情報支援

### 学生活動団体 3団体

実践農学入門や実践農学を履修した学生たちが自主的に活動を続けています。



#### 地域密着型サークル にしき恋

農業ボランティアをはじめ、地域の小・中学生との交流、活動拠点の最寄り駅の丹波大山駅の活性化などの地域活動や、名産である丹波黒大豆の栽培・販売を行っています。今年度は、毎週末の農業ボランティアを精力的に行うとともに、夏と冬の小学生交流、無人駅でのマルシェの開催、地域のお祭りへのお手伝いなど地域との関わりを深めました。また、灘チャレンジや西紀のついで、六甲祭に出店し、黒豆きなこを使ったお菓子や鶏雑炊を販売。六甲祭グランプリでは、きなこ揚げパンで2位を獲得しました。さらに、にしき恋のファームで収穫した黒枝豆・黒豆は、オンラインや学内、新大阪・神戸のマルシェで販売し、完売することができました。



#### 国際農業サークル AGLOC

「国際交流」と「農業」を軸に、神戸大学の留学生とともに月1・2回活動しています。今年度は、メインの活動である農業ボランティアに加え、留学生をガイドしつつ篠山城下町と一緒に観光したり、特産品の山の芋を使った「山の芋ナゲット」の販売イベントのお手伝いをしたりしました。こうした活動で、丹波篠山を通じた様々な方々とのつながりを、より一層深められました。



#### 多世代交流拠点サークル Luonto

2021年度の実践農学の授業から誕生したLuontoは、丹波篠山市城南地区で、地域の方々との交流の場を作ることを目標に活動しています。今年度は活動連携先のアグリステーション丹波ささやまにて、イベントのボランティアをしたり、自分たちでも流しうめんのイベントを開いたり様々なイベントに取り組みました。また、丹波篠山市主催のわくわくフェスタ、アグリステーション主催のアグリフェスタにて地域の方に作り方を教わった鶏ごぼろおにぎりを販売し、どちらも完売することができました。さらに学生カフェの運営に向け、メニュー試作や看板作りなどを行いました。

### セミナー・イベント開催 254件

篠山イノベーターズスクール(丹波篠山市が主催、神戸大学が支援)の実施、丹波篠山研究発表会の開催など、丹波篠山をフィールドに起業活動や研究活動を行う人々への様々な情報提供や支援を展開するとともに、活動の場を提供しています。

### 視察件数 10件

単なる施設や活動の視察だけでなく、地域と大学の連携について学びたいといった声や、実際に地域でできる活動について相談に来られる方が増え、大学と地域との連携拠点としての機能が広く認知されつつあります。また、留学生や他大学からの視察も行われており、交流も活発に行われています。

### 相談件数 114件

地域内外の方々から、起業や移住に関する相談、イベント企画や地域活動についての多くの相談がありました。神戸大学以外の大学生や地域の高校生にとっても、丹波篠山市での研究・活動の相談窓口となっています。

### 施設利用件数 303件

農村イノベーションラボのワーキングスペース開放、丹波篠山フィールドステーションの登録制シェアオフィスなど、多くの方が利用しやすい仕組みを試行しています。

※神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボと丹波篠山フィールドステーションの合計件数